

高齢者や障害者のための木材を用いた家具デザインの国際連携

INTERNATIONAL COLLABORATIVE WORK FOR WOOD-ORIENTED FURNITURE DESIGN FOR THE ELDERLY OR PERSONS WITH DISABILITIES

相良 二郎	芸術工学部プロダクト・インテリアデザイン学科 教授
田頭 章徳	芸術工学部プロダクト・インテリアデザイン学科 助教
安森 弘昌	芸術工学部プロダクト・インテリアデザイン学科 准教授
古賀 俊策	芸術工学部プロダクト・インテリアデザイン学科 教授
見明 暢	芸術工学部プロダクト・インテリアデザイン学科 助教
ラスムス マルベルト	ヨーテボリ大学クラフト・デザイン学科 STENEBY 校 講師
シグリッド ストレングレン	ヨーテボリ大学クラフト・デザイン学科 STENEBY 校 助教
マッツ アルデン	ヨーテボリ大学クラフト・デザイン学科 STENEBY 校 教授

Jiro SAGARA	Department of Product and Interior Design, School of Arts and Design, Professor
Akinori TAGASHIRA	Department of Product and Interior Design, School of Arts and Design, Assistant Professor
Hiomasa YASUMORI	Department of Product and Interior Design, School of Arts and Design, Associate Professor
Shunsaku KOGA	Department of Product and Interior Design, School of Arts and Design, Professor
Nobu MIAKE	Department of Product and Interior Design, School of Arts and Design, Assistant Professor
Rasmus Malbert	HDK STENEBY, University of Gothenburg, Lecturer
Sigrid Strömngren	HDK STENEBY, University of Gothenburg, Associate Professor
Mats Alden	HDK STENEBY, University of Gothenburg, Professor

要旨

我が国の高齢化率は世界最高水準にあり、人口の約 1/4 を占めている。高齢者のみの世帯数も増加傾向にあり、全世帯数の約 1/4 を占めるに至っている。高齢者とその家族にとって、どこでどのように暮らしていくのかは深刻な問題であり、大きな不安要素となっている。

スウェーデンのヨーテボリ大学 HDK STENEBY 校の木工家具デザインコースとは 2014 年の本学訪問以来連絡を取り合っており、2015 年 3 月には相良が訪問し、相互交流の機会を得た。スウェーデンは福祉先進国であり、高齢者のための住居やケアのシステムにおいても進んだ取り組みが行われている。そこで、高齢者のための家具デザインを通じた相互連携事業を企画した。3 月に合意した STENEBY のエイドリアン氏が 4 月に退職していたことが 5 月に判明し、合意形成と協定書の締結が 10 月にずれ込んでしまったため、当初の計画通りには進めることができなかったが、2 月のストックホルム家具見本市の機会に交流を行い、安森、田頭および学生 2 名が STENEBY に滞在しワークショップを通して交流する機会を得たので、高齢者用家具のデザインと STENEBY との交流について報告する。

Summary

Japan is well-known as a most hyper aged society in the world. Around quarter of houses are lived by aged family or solitary. It is the big problem how and where to live for the elderlies and his/her relatives.

We have contact with HDK STENEBY since 2014, when two men visit KDU to meet the staff of the Design Soil. After that, Mr. Sagara visited Wood Oriented Furniture Design at HDK STENEBY in March 2015, then discussed a transaction project for design furniture for the elderly between HDK STENEBY and KDU.

Unfortunately, Mr. Adrian Coen quit HDK STENEBY on April to go back to his homeland. Consequently, we have to re-start it with Mr. Rasmus, then the MOU finally exchanged in October. As the result of this delay, the plan was modified. However, All of us with two students of KDU and around 10 students of HDK STENEBY discussed together after a brief talk of Mr. Jiro Sagara at the Stockholm Furniture Fair, then Mr. Hiromasa Yasumori and Mr. Akinori Tagashira with two students visited STENEBY for a week, and had a opportunity to hold workshop.

1) 背景と目的

我が国は世界で最も高齢化が進んでおり、介護が必要な高齢者を対象とした居住施設等の建設が進められている。支援や介護を必要とする高齢者を対象とした居住施設等には、ケアハウス、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、グループホームなど多様であるが、2000年の「介護保険法」施行を機会に特別養護老人ホームにおいても多床室から個室へと変化し、病院的な空間から住宅的な空間へと変化をしてきている。2011年の「高齢者住まい法」の改正により、高円賃、高専賃、高優賃がサービス付き高齢者住宅（サ高住）へと一本化され、施設と住宅の融合が促進され、より居住性能が高い空間の提供が求められるようになってきている。

しかし、我が国の高齢者施設（サ高住を除く）における個人が専用使用する空間は10～15㎡と狭く、ベッドの他には家具を置くスペースは限られ、特別養護老人ホームでは自分の家具の持ち込みができないところが多い。

スウェーデンやデンマークのサービス付き住宅は20～35㎡で寝室に加えて日中過ごす空間と台所およびサニタ



図1 コペンハーゲンのサービス付き高齢者住宅

リールームが義務付けられており、使い慣れた家具の持ち込みが許されている。また、パブリックスペースには多種多様な椅子が置かれ、利用者はそれぞれ好みの椅子を選んで使用している（図1）。

厚生労働省が1990年代に推進した「寝たきりゼロ作戦」によって、ベッドや畳の上の寝具を生活の中心にしてきた要介護高齢者の多くが、日中のかなりの時間をパブリックな空間である食堂や居間に置かれた椅子や車椅子の上で、あるいは自らの居室の前のセミパブリックなスペースの椅子や車椅子の上で過ごすようになってきた。これらの椅子は施設側が用意をするもので、ほとんどの場合は画一的なものが備えられることになる。また、供給するメーカー側も、スタッキング等による片付け易さや清掃の容易性に着目したものがほとんどである。このため、利用者の体格の差や心身機能の差への対応に問題がある。また、食事のときとくつろぐときとは姿勢が異なるにも関わらず、食堂の椅子で過ごさざるを得ないため、長時間の座位姿勢を保つことが困難な利用者も多い。車椅子についても、制度上施設側が用意するために画一的となり、利用者の個々の特性に適合させることができない。

また、施設等利用者に占める認知症者の割合が高まっているが、精神面に配慮した椅子は提供されていない。

本研究はこのような現状に対して、高齢者の心身の特性に合った新しい椅子の提案を行うことを目的とした。

また、デザインに際し、2013年度から交流を開始したスウェーデンのヨーテボリ大学クラフト・デザイン学科STENEBY校（HDK STENEBY）の木工家具デザインコースと連携して進めることで合意した。

2) 研究方法と結果

特別養護老人ホーム「KOBE 須磨きらくえん」および、サービス付き高齢者住宅「ゆいまーる伊川谷」を対象に訪問調査ならびに訪問先でのインタビューを行い、現状の把握と問題点の抽出を行った。「KOBE 須磨きらくえん」は1982年に認可を受けた社会福祉法人きらくえんが開設した最新の特別養護老人ホームであり、妙法寺の住宅団地の一角にある。社会福祉法人きらくえんは、兵庫県下で先進的

な高齢者施設を運営しており、国の制度を先取りしたユニットケアや全個室化を進めてきた法人である。「KOBE 須磨きらくえん」は特別養護老人ホームでありながらも、民間経営の有料老人ホームに負けない高い質の居住空間を提供している。「ゆいまーる伊川谷」は株式会社コミュニティネットが全国に展開しているサ高住の一つで、伊川谷駅から1分の距離にあり、小規模多機能介護事業所や地域開放の食堂と図書室を併設している。株式会社コミュニティネットはコミュニティづくりを通して社会問題の解決に取り組んでいる企業である。

「ゆいまーる伊川谷」は入居者の自立度が高く、パブリックスペースには特別な家具は無かったが、立座りが容易なように手すり付きのものが選ばれていた。なぜかエレベータホールには座が回転してテーブルに着きやすい椅子が置かれていた。

「KOBE 須磨きらくえん」は施設の性格上入居者全員が要介護者であり、認知症の人も多いが、こちらは一見して要介護者用と見える椅子は置かれていなかった。施設内のバーにはデザイナーチェアが置かれ、施設らしさを出さない配慮がなされている。しかし、集団から距離を置きたい人の居場所や、身長差への対応、行為毎の姿勢への対応、テーブルへの着座動作などへの配慮が必要とされたが、福祉用具と見えないスタイリングが重要であるとのことだった。

3) 高齢者家具のデザイン要素

調査を基に、高齢者家具に求められるデザイン要素を整理した。高齢者用家具には身体的な適合だけでなく、精神面への配慮や感性的な価値を提供することが求められている（図2）。この3つの要素に対して、

- ① 特別なスタイリングでないこと
- ② 行為に適した座位姿勢がとれること
- ③ 集団の中でもプライバシーが守られ、見守れること
- ④ 異なる体格へ対応できること
- ⑤ コミュニケーションが促進されること

を要求仕様として掲げた。

これらの要素に対してアイデア展開を行い、図3に示す方向性を定めた。

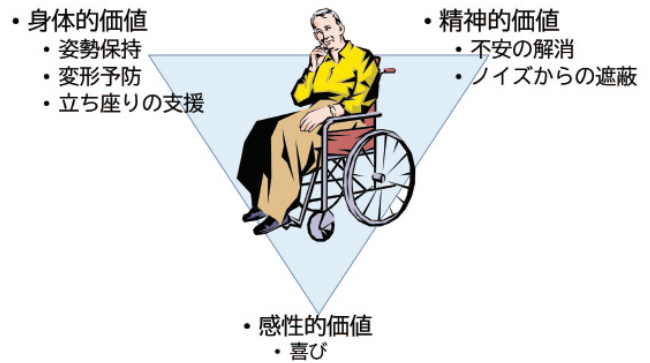


図2 高齢者用家具に求められる価値

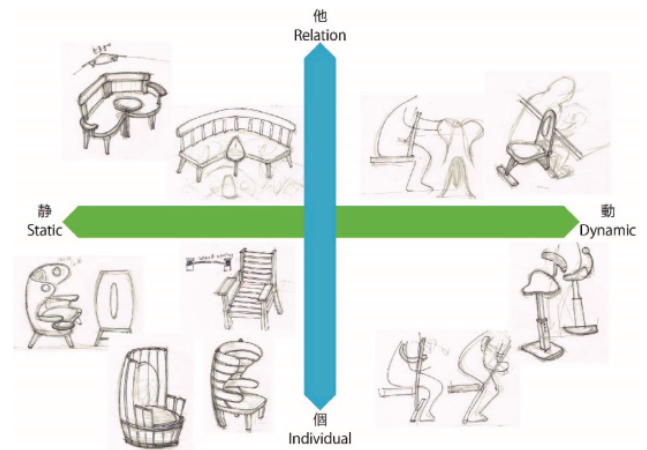


図3 高齢者用家具のアイデア

4) HDK STENEBY との連携

ヨーテボリ大学 HDK STENEBY との連携は、2015年3月に合意を行った Adrian 氏が3月末で急遽退職して母国のアイルランドへ戻っていたことが5月になってわかり、急遽彼の同僚である Mallbert 氏に連絡をとり、Alden 教授およびヨーテボリ大学国際交流担当の Leissner 氏との調整を行ったが、セメスターの関係から協定書締結が10月の末になってしまった。このため、双方の学科でデザイン競作を行うことを断念し、HDK STENEBY の学生が作品を展示することになったストックホルム国際家具見本市にあわせて訪問し、HDK STENEBY にて合同のワークショップを開催することとした。本学からはプロダクト・インテリアデザイン学科の2年生2名が参加した。

2016年2月10日から13日までストックホルム国際家具見本市を視察し、10日の午後には相良が「Design for Elderly」と題して講演を行い HDK STENEBY の教員および学生と意見交換を行った。また、ストックホルム市内にあるリンショッピン大学カールマルムステン家具学科と

も交流の機会を得た。2月15日の週は安森および田頭が2名の学生とともにストックホルムから車で6時間程度離れたDals LångedのHDK STENEBYに滞在し合同ワークショップを行った。HDK STENEBYの木工家具制作には日本の大工道具や家具制作に対する関心が高く、安森と田頭によるワークショップは参加者から高い評価を受けた(図4)。

ストックホルム家具見本市にはスウェーデンで最大手の医療・福祉用家具メーカーであるIntercare社以外には関連製品の展示はなかったが、多くの企業が、数名での対話を行うためのブース様の家具や、腰痛を防ぐための立位に近い姿勢で使用するデスクと椅子を様々なバリエーションで展示をしていた。これらは我々が提示した要素に関連するところがあり、参考となった(図5)。



図4 HDK STENEBYでのワークショップ 日本の鋸での加工。デモンストレーション(上)と学生による作業(下)

5) おわりに

当初の計画からはそれてしまったが、相互の教員と学生にとって有意義な交流を行うことができ、またカールマルムステンとの新しい関係も築くことができた。高齢者用家具のデザインについては、引き続き研究を行い、具体的な形へ落とし込んでいきたい。

参考文献

光野有次・吉川和徳、『シーティング入門 座位姿勢評価から車いす適合調整まで』、中央法規出版、2007年



図5 スtockホルム家具見本市会場 中腰姿勢で使用する椅子(上)とプライバシーに配慮した椅子(下)

